

amazon pay

これだけは知っておきたい
Amazon Payの重要仕様

これだけは知っておきたいこと

- ✓ 実装方式
- ✓ オブジェクト
- ✓ チャンネルごとの特徴

実装方式

- ✓ ワンタイムペイメントとAuto Payの2つの実装方式がある
- ✓ 実装方式の使い分けはどのようになるか

ワンタイムペイメントとは

購入者に対して支払いの度に配送先、支払い方法の選択を求める方式

特徴

- **高額の支払いに対応**
(最大1,000万円のオーソリが可能)
- **オーソリ可能な期間は最長180日間**
- **注文時の金額以上の追加請求に制限あり**
(注文金額の15%の増額を最大で8,400円まで可能)
- **最も採用されている実装方式**

適した商材

- 通常の一回落りの購入
- 高額商品
- ギフトなどで配送先が注文毎に異なる

適さない商材

- 注文後に制限以上の追加請求が発生する
- 予約商品などで180日以内にオーソリができないもの

Auto Payとは

配送先、支払い方法を以降の支払いに使用するという契約を結ぶ方式

特徴

- 配送先・支払い方法は固定
- 契約が有効な限り事業者側で請求可能
(Amazonが自動で請求することはない)
- 1契約あたり毎月最大5万円までの請求可能
- 購入者自ら契約を解除することが可能
(サービスの利用を継続させるかは事業者次第)

適した商材

- 定期購入など次回以降の支払いを自動で行う
- 注文時の金額から追加請求が発生するもの
- 少額の支払いを短期間に繰り返すもの

適さない商材

- 月に5万円以上の請求が発生する
- 契約中に配送先が頻繁に変わる
(契約の内容を書き換えることは可能だがUXが悪い)

実装方式による違い

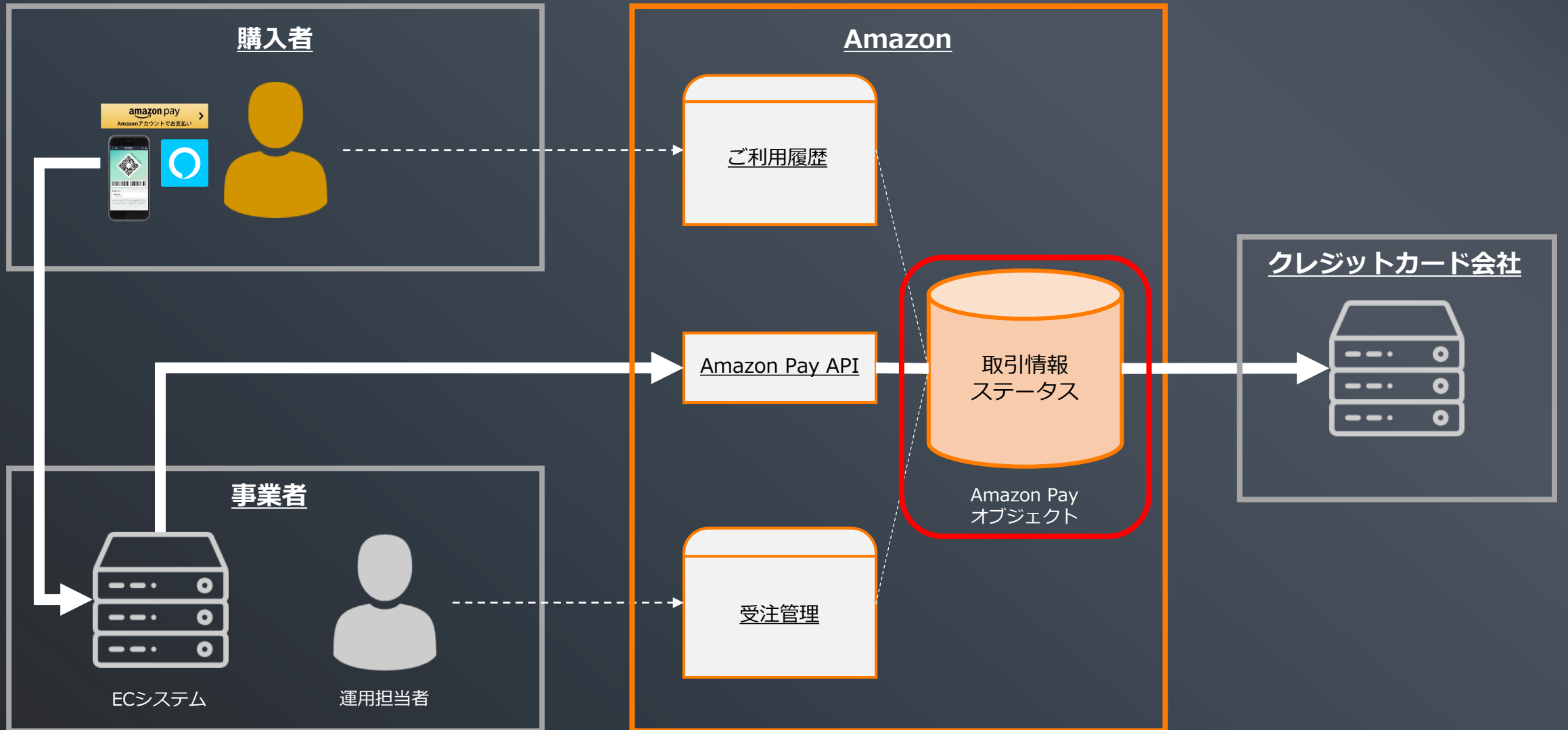
実装方式	取引種別	実施者	請求金額	配送先	支払方法
ワンタイム ペイメント	注文1	購入者	200,000	住所A	Visa 1111
	注文2	購入者	100,000	住所B	Master 2222
Auto Pay	契約	購入者	-	住所C	JCB 3333
	注文3	事業者	1,000	住所C	JCB 3333
	注文4	事業者	3,000	住所C	JCB 3333

1. 高額な請求にも対応可能
2. 配送先・支払方法を注文毎に選択可能
3. 契約時に設定した配送先・支払方法が使用される
4. 注文を事業者が作成可能

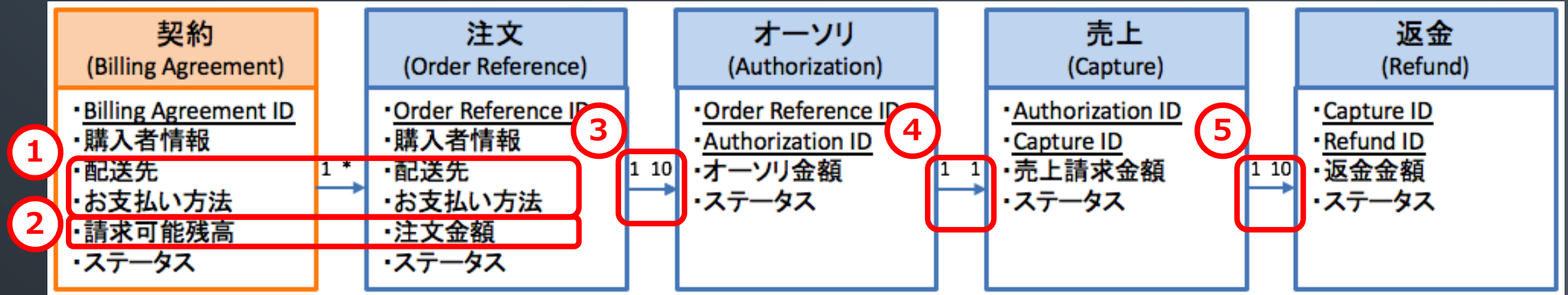
オブジェクト

- ✓ Amazon Payのオブジェクトとは何か
- ✓ オブジェクト間の関係はどのようになっているか

Amazon Payのオブジェクト



Amazon Payのオブジェクト



1. Auto Payの注文の配送先・支払方法は契約から引き継ぐ

2. Auto Payの注文金額は請求可能残高の範囲内で設定が必要

3. 注文に対してオーソリを最大10分割にすることが可能

4. オーソリと売上は同時に生成可能。処理を分ける場合、30日以内に売上請求が必要。

5. 売上請求後の返金はいつでも実施可能

チャンネルごとの特徴

✓ チャンネルにより仕様が異なる点は何か

各チャネルによる違い

チャネル	ワンタイムペイメント	Auto Pay	特徴
オンライン決済 			<ul style="list-style-type: none">• 全ての機能が利用可能• 発想次第で様々な支払いに対応可能
バーコード決済 			<ul style="list-style-type: none">• 現地決済を対象• 配送先は使用しない• 即時請求のみ
Alexa決済 			<ul style="list-style-type: none">• 配送先・支払方法はAmazon.co.jpの既定の設定を自動で使用

これだけは知っておきたいこと

- ✓ 実装方式
- ✓ オブジェクト
- ✓ チャンネルごとの特徴

ご清聴ありがとうございました！